

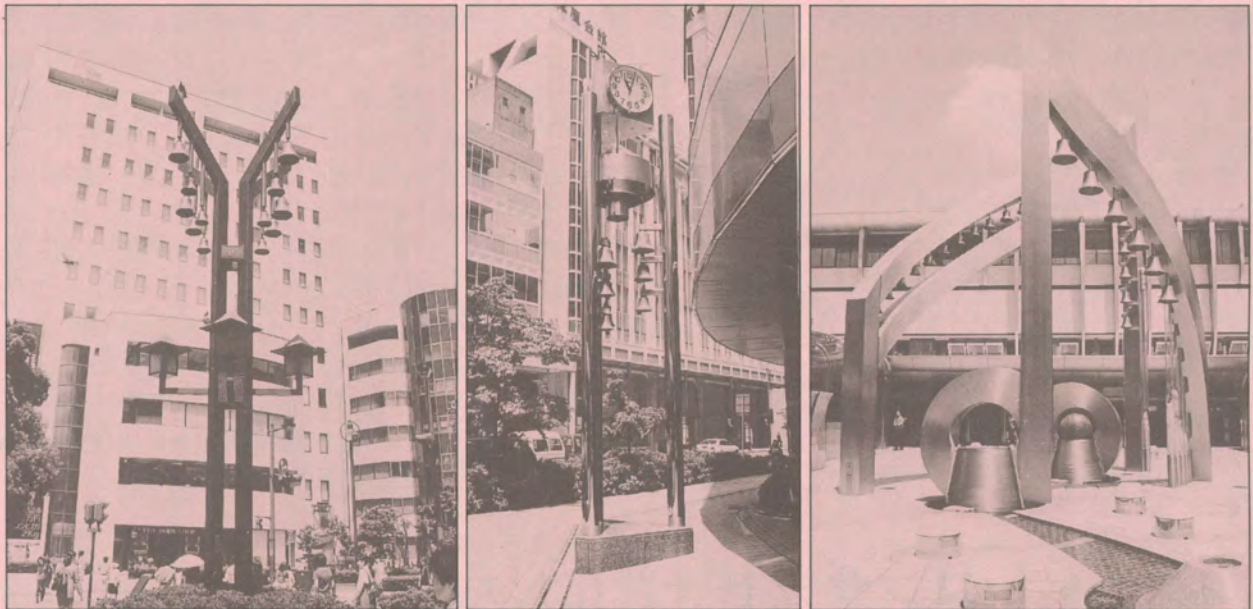


# Hamamatsu Museum of Musical Instruments 浜松市楽器博物館だより

No. 8

1997. 6. 30

## 楽器のある風景 ～カリヨン～



カリヨン すべて浜松市内（左より 遠鉄新浜松駅前，鍛冶町交差点，JR浜松駅南口）

街を歩いているとどこからともなく鐘の音が……。こんな経験をしたことがありますか？

この音の正体、実は、カリヨンという楽器なのです。メロディーを奏でられるよう、いろいろな音に調律された大小さまざまな鐘を組み合わせて作られており、一つ一つの鐘の中に取り付けられた舌を動かして音を出します。このカリヨン、出身はヨーロッパで、塔や屋外の建物に取り付けられ、主に時報を流す目的で使われてきました。一時は衰退したものの、19世紀末頃から急激に復興し現在に至っています。自動演奏装置もありますが、棒状の鍵盤をげんこつでたたいたり足で踏んだりして舌を動かす手動式のものもあり、カリヨン奏者によって演奏されます。また、カリヨンのための音楽も作曲されています。

さて、近年、小型のカリヨンやからくり時計が日本中のあちらこちらでよく見られるようになりました。時を知らせる目的だけでなく、デパートや駅前広場など人が集まるところにあるものは、待ち合わせの目印としても使われています。また、通りがかりに音に誘われてふと足を止めたり、それを見るために人が集まったりすることから、宣伝にも一役買っているようです。

我が浜松市にもカリヨンはいくつかあります。遠鉄新浜松駅前、鍛冶町交差点（富士銀行前）、JR浜松駅南口の3ヶ所にあるカリヨン（写真）は、それぞれ季節や時刻にあわせた曲を自動的に奏でるようになっています。夏のプログラムを例にとると、「海」（鍛冶町交差点及びJR浜松駅南口10:00）、「キラキラ星」（遠鉄新浜松駅前及び鍛冶町交差点21:00）などが選ばれており、広く親しまれている童謡や民謡が多いようです。浜松らしさが感じられるのは、JR浜松駅南口のカリヨンで一年を通じて正午に浜松市歌が奏でられるところでしょうか。これらのカリヨンは、普段、オブジェとして街並みにとけ込んでいますが、決まった時刻になると、時報として曲を奏で、私たちの耳を楽しませてくれます。

もし、まだ一度もカリヨンの音を聴いたことがないとおっしゃるならば、ぜひ耳を澄ましてみてください。ビルの林や雑踏を縫って、カリヨンがあなたに時を告げるでしょう。(I.N)



## 特別展「ペルシアの楽器」

3月25日～5月11日まで特別展「ペルシアの楽器」が開催されました。現在ユーラシア大陸で用いられている楽器の多くが、そのルーツを古代ペルシアに持つと考えられており、現代イランを中心としたペルシア地域は、楽器の変遷を考える上で重要なキーポイントになっています。そしてこれらの地域の音楽や楽器はシルクロードを通して中国に伝わり、さらに日本へと影響を与えました。尺八、琵琶、三味線なども遥かさかのぼれば古代ペルシアに源流を持つといえます。今回の特別展では、現代イランの楽器約45点をはじめとし、ペルシアじゅうたんやペルシア書道、現代イランの写真等を展示し、世界で最も古い文化の一つ‘ペルシア’を考えてみました。

また特別展開催に先駆けて、3月22日にアクトシティ浜松研修交流センターで、東京藝術大学の柘植元一さんをお招きし、講演会「ペルシア音楽の今昔」が催されました。講演では伝統的なペルシア古典音楽から最近のポップスまで幅広いイランの音楽を紹介していただきました。中でも印象的だったことは、1979年のイスラーム教シーア派による

イラン革命後の音楽の扱いでした。特にホメイニーの「音楽放送をやめ、もっと有益で教訓的な番組を流すよう心がけるべきだ。音楽は若者の脳を麻痺させ動きを鈍くする」という発言はイラン国内の音楽を混乱させたということでした。

他にも3月20日にレクチャーコンサート「ペルシアの歌と楽器」が開催されました。大阪音楽大学の西岡信雄さん、プーリー・アナビアンさんらにより、サントゥール、セタール、トンバク、歌などペルシア古典音楽の演奏と解説が行われました。コンサートではイランの楽器とヨーロッパ、日本の楽器との関係にも触れながら、世界で最も古く、複雑な理論体系を持つペルシア音楽を、わかりやすく紹介して下さいました。



## レクチャーコンサート「普化尺八」

日時：平成9年5月17日（土） 14:00～16:30

会場：アクトシティ浜松研修交流センター21音楽セミナー室

お話と演奏：志村 哲さん（大阪芸術大学）、横山 勝也さん（尺八家）

現在我々が目にしたり耳にしたりする尺八は、正式には「普化尺八」と呼びます。今回のレクチャーコンサートでは、この普化尺八にスポットをあて、その歴史、構造、奏法、古銘管と現代の尺八との違いなどをお話ししていただきました。

当館所蔵の古銘管を使った志村さん、横山さんの演奏で幕を開け、最初に志村さんから尺八の誕生、名前の由来、日本への伝来、日本における変遷についてのお話をいただきました。

「普化尺八」という名前は、江戸時代に栄えた仏教の宗派の一つ「普化宗」に由来しています。普化宗という言葉はあまり耳慣れないかも知れませんが、時代劇によく出てくる虚無僧（深い編み笠をかぶって尺八を吹いている）の宗派といえば分るかと思えます。この時代には尺八は楽器ではなく、法器（仏教の道具）として認知され、虚無僧は尺八を吹くことによって、座禅を組むのと同様の修行を行うことができたのです。本来は虚無僧以外吹くことを禁じられていたのですが、次第に空文化し、一般人の間にも広まるようになりました。明治以降、新日本音楽運動の影響で尺八は多くのジャンルに使用され、現代では西洋の楽器との融合、あるいはコンピュータとの組み合わせによるパフォーマンスも行われるようになり、日本を象徴する楽器として海外にもよく知られるようになりました。

歴史の話に続いて、志村さんより、尺八の構造、奏法を、古銘管と現代の尺八との比較を交えて解説していただきました。特に地無し（管内にうるしを塗って表面を平らにすることを‘地塗り’といいます）の古銘管が持つ特質については、志村さんの長年の研究をもとにした、貴重なお話を聞くことができました。休憩を挟んで、当館所蔵の古銘管による、志村さん、横山さんの演奏、横山さん自作の尺八による演奏と続き、計2時間30分という長時間にもかかわらず、お集まりくださった約210人の聴衆は、尺八の魅力に心を奪われていたようでした。





# 事業報告

## ■講座 シリーズくらしと楽器

「不思議な笛の世界」 講師：神谷 徹さん（大阪音楽大学）

5/10（土）14:00～16:00 アクトシティ浜松研修交流センター401会議室 参加者51名  
シャボン玉発生装置付のものや回転するものなど、アイデアに満ちたストローの笛を紹介しました。

## ■展示室ガイドツアー

4/13（日）、5/11（日）、6/8（日）

これまで楽器や音楽に親しむ機会が少なかった方や、興味はあるもののあまり縁がなかった方。そうした方々にもぜひこの博物館を有効に利用していただこうと、今年度4月より毎月第2日曜日に展示品の簡単な解説を行っています。4～6月で延べ108名の方が参加され、熱心にメモをとる姿も見られました。



## ■ミュージアム・サロン

「一絃琴イロハのイ」

4/20（日）11:00, 13:00, 15:00

普段生活の中で演奏されることが少なくなった一絃琴の、音と構造を紹介しました。

## ■「ヴィオラ・ダ・ガンバ」

5/25（日）11:00, 13:00, 15:00

ヴィオラ・ダ・ガンバの歴史や形の特徴を解説し、東海大学のガンバ専攻学生による演奏を楽しんでいただきました。

参加者：各回とも20～30人



上 講座 シリーズくらしと楽器

「不思議な笛の世界」

下 展示室ガイドツアー

## 常設展に仲間入りしました

ピアノ スタンウェイ（ニューヨーク・1911年）

ピアノ ベーゼンドルファー（ウィーン・1910年）

リード・オルガン （合）西川楽器製作所（横浜・1897年）

現代のコンサート・グランドピアノの最高峰の一つスタンウェイとベーゼンドルファーの今世紀初頭のものが新たに展示されました。2つの名器を比較してみてください。また1921（大正10）年に日本楽器製造（株）（現ヤマハ）に吸収合併された西川楽器の初期のオルガンも加わりました。

## 収蔵資料の紹介

### ■クリストフォリのピアノ（復元品）

‘ピアノ’が発明されたのは、およそ300年前、1700年前後のことです。イタリアのフィレンツェで、大富豪のメディチ家に仕えていたハーブシコード製作者バルトロメオ・クリストフォリ（Bartolomeo di Francesco Cristofori 1655～1732）が発明した、というのが定説です。

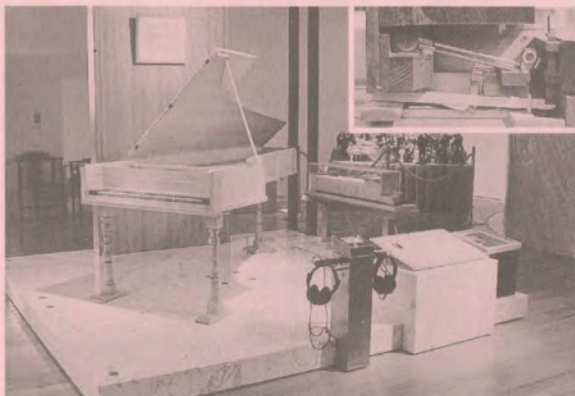
その頃は、鍵盤楽器では、弦をはじいて音を出すハーブシコード（イタリア語でチェンバロ）が全盛でした。しかし、この楽器は音量を自由に变化させることが出来ませんでした。彼は‘弦をハンマーで打つ’という仕組みを、このハーブシコードに採用することによって、音量の自由な变化を実現したのです。ですから、この新楽器は‘クラヴィチェンバロ・コル・ピアノ・エ・フォルテ’（=弱音と強音を持つチェンバロ）と呼ばれました。

発明当初の実物は残っていませんが、楽器としてはやはり不完全だったようです。クリストフォリはその後研究を続け、1720年にピアノとしての完全なアクションキーを押してハンマーが弦を打つ直前に、ハンマーへの力の伝

達が切られる仕組み（エスケープメント）と、打弦後ハンマーが動かないようにハンマーを支える仕組みを備えた楽器を完成しました。それは、今もアメリカ・ニューヨークのメトロポリタン博物館に保管されています。

浜松市楽器博物館では、現在残っているこの最古のピアノを是非皆さんにご覧いただき、今日のピアノの原点を考えていただこうと、メトロポリタン博物館の協力を得て、1720年製ピアノの復元製作をし、アクション模型とともに、オープン時から展示しています。ヘッドフォンでは収録した音を聴くことが出来ますが、その音はピアノよりもハーブシコードに近いものです。

クリストフォリが生きている間は、演奏家の間ではこの楽器の評判は悪かったと言います。この新楽器‘ピアノ’の為の曲が初めて世に出たのは、クリストフォリが亡くなった翌年、1732年のことでした。（K.S）



クリストフォリのピアノ（復元品）  
右上 アクション部分



# これからの事業スケジュール

事業名	開催期間	内容
小展示「クラヴィコードの時代」	6.26(木)～7.21(月)	クラヴィコードが使われていた時代(16世紀頃)の社会と音楽を紹介します
講座 シリーズくらしと楽器「楽器の中の絵画」	7.5(土) 14:00～	楽器に描かれた絵画について考察します
レクチャーコンサート「静寂との出会い」(クラヴィコード)	7.12(土) 14:00～	出演:宮本とも子(フェリス女学院大学助教授)
見学会「音さがしの旅」	7.25(金) 9:30～	街の中の身近な音をさがしに出かけます
小展示「ワークショップの楽器」	7.29(火)～8.31(日)	夏休みワークショップで作る楽器を紹介します
夏休みワークショップ「楽器をつくろう」	7.29(火)～8.10(日)	毎年好評の子供向け楽器工作教室です
セミナー 楽器の中の聖と俗「音楽を聴く微生物」	9.13(土) 14:00～	酒などを発酵させる菌類と音楽の関係について考察します
企画展「世界の太鼓」	9.30(火)～10.26(日)	人間に最も身近な楽器「太鼓」の数々を紹介します
展示室ガイドツアー	毎月第2日曜日	学芸員が展示品の解説をします
ミュージアム・サロン	毎月1回 日曜日	学芸員による楽器文化ワンポイントミニ講座です

## 3月～6月までのあゆみ

- 3/20(木) レクチャーコンサート「ペルシアの歌と楽器」開催  
 3/25(火)～5/11(日) 特別展「ペルシアの楽器」開催  
 4/13(日) 展示室ガイドツアー「弦鳴楽器」開催  
 4/20(日) ミュージアム・サロン「一絃琴イロハのイ」開催  
 5/10(土)～6/15(日) 小展示「ゆかいな笛たち」開催  
 5/10(土) 講座 シリーズくらしと楽器「不思議な笛の世界」開催 講師:神谷徹さん  
 5/11(日) 展示室ガイドツアー「ピアノ、管楽器」開催  
 5/17(土) レクチャーコンサート「普化尺八」開催  
 出演:志村哲さん, 横山勝也さん  
 5/25(日) ミュージアム・サロン「ヴィオラ・ダ・ガンバ」開催  
 6/8(日) 展示室ガイドツアー「弦鳴楽器(リュート属)の変遷」開催  
 6/6(金), 11(水) 中学生職場体験学習  
 6/22(日) ミュージアム・サロン「ゆかいな笛」開催  
 6/26(木)～7/21(月) 小展示「クラヴィコードの時代」開催

3～5月の観覧者数

大人	個人	15,428
	団体	1,973
中人	個人	480
	団体	207
小人	個人	3,988
	団体	638
幼児		823
合計		23,537

## 利用案内

開館時間:火曜日～日曜日 午前9:30～午後5:00

休館日:月曜日(祝日にあたる時は開館)、祝日の翌日、年末年始、  
 その他資料整備等のために定める日

一祝日前後の開館日については、変更することがございます  
 ので当館にご確認下さい。一

観覧料:	個人	団体(20人以上)	団体(80人以上)
大人(大学生以上)	400円	320円	240円
中人(高校生)	200円	160円	120円
小人(小・中学生)	100円	80円	60円

※館内には、貴重品以外のお荷物は持ち込みできません。

浜松市楽器博物館だより

1997年6月30日発行

No.8

編集 浜松市楽器博物館

〒430 静岡県浜松市板屋町108-1

TEL 053-451-1128

FAX 053-451-1129

印刷 株式会社 シバプリント